



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No.04

令和5年12月21日

学校だより

令和5年度社会創生プロジェクトの取組

後期課程 副校長 吉田 千春

本校の社会創生プロジェクト（以下:社創）とは、総合的な学習の時間や生活科と国語科をはじめ、他の教科等と関連させた本校独自の学習であり、仲間と共に協働で課題に向き合う探究学習です。

これからの社会においては、子供たち一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていかなければなりません。未来に向け社会の創り手として、課題解決などを通じて持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められます。

そんな力を持った子供たちを育むため、本校では、目指す子供像を「自律・協働・貢献」という言葉で表し、学校教育全体でこの力の醸成に取り組んでいます。特に社創の学びの中で育むことを目指して、子供たちとともに活動を進めています。

本号では、現在子供たちが取り組んでいる活動についてご紹介します。

【1年生】『 ぼく・わたしの「すき」をみんなにひろげよう 』

学校に入学して初めて出会うお友達。みんなの「すき」はなんだろう。もっとみんなのことを知りたいな。こんな子供たちの思いから始まった「がっこうたんけんプロジェクト」。子供たちが、入学して初めて取り組んだプロジェクトです。わくわくどきどきの学校探検プロジェクトを通して、社創の楽しさを知りました。第2弾「あさがおぐんぐんプロジェクト」では、2年生からもらった朝顔の種をきっかけに、責任をもって一人一鉢の朝顔を育てる活動に取り組みました。第3弾は「ひまわりたいようプロジェクト」です。愛情をもって一生懸命育てた朝顔が、きれいな花を咲かせてくれたことに自信をつけた子供たちは、みんなで協力しながら大きく育ったひまわりを学校中に広めていきました。

1年生では、身の回りの自然や友達と関わる活動を通して、一人一人の「すき」を追究し、周りの友達やたくさんの人に自分たちの「すき」をひろげる活動を続けていきます。



【2年生】『 みんなのえがおをひろげよう～おもしろいことやってみよう～ 』

1年生のときに2年生にたくさん楽しませてもらった経験が、子供たちにとってとても大きく、自分たちもいろいろな人たちを笑顔にしたいという思いが強くなりました。好奇心旺盛な子供たちは、生き物、野菜、自然、しかけのある楽しいおもちゃと、興味のあることにチャレンジしながら、自分たちが調べ、体験し、学んだことを他学年の子供たちに様々な方法で発信してきました。そこでは、たくさんの笑顔の交流があり、子供たちは内容を変えながら人と関わることの楽しさや喜びを実感してきました。

第3弾の「秋だ！エコだ！スペシャルおもちゃまつりプロジェクト」では、「エコ」「スペシャル＝しかけ」をキーワードに様々なおもちゃ作りにチャレンジしました。そして、1年生を招待し、おもちゃ作り体験コーナー、おもちゃでゲームコーナーなどお店の内容も自分たちで工夫して、自分がこだわって作ったおもちゃを通して、1年生と仲良く活動することができました。



【3年生】『ふぞくとめざせ！おそうじマスタープロジェクト』

2年生の町探検から、道路や川にゴミが落ちていることが気になった子供たちは、「地域をきれいにして、みんなに気持ちよく過ごしてもらいたい。地域の人と仲良くなりたい。」という思いをもちました。そこで、3年生の春に明新地区のどんなどころにゴミが落ちているか調査をしました。道路わきや公園に落ちているごみ、草が生い茂っている砂場などが気になり、公園の掃除をすることになりました。どうしたら楽しく掃除をできるか、どうしたら地域の人と仲良くなれるか子供たちは意見を出し合いながら計画を練ってきました。地域の方に呼びかけを行い、第1回は北部公園、第2回は喜多町公園のごみ拾いや草むしりなどの掃除をしました。その中で、地域の方に掃除道具の使い方を教えていただき、一緒にお話をしながら掃除をすることの楽しさやきれいになっていくことへの気持ちよさを感じていました。これからも、地区の様々なところをきれいにしていきたいと思いを膨らませています。



【4年生】『広げよう！笑顔のつながりプロジェクト』

今年も自分たちの力で地域の方の笑顔を生み出し、繋いでいこうと活動を始めた子供たち。早速、地域の清掃活動しようとして歩道橋の清掃や公園の清掃に出かけました。しかし、笑顔を生み出すためには、自分たちが掃除したいところを掃除するだけでなく、地域の方がきれいにしてほしいところを掃除することが大切なのではないかと考えました。そこで、子供たちは公民館に集まる地域の方に、清掃アンケートを実施。どんなどころをきれいにしてほしいのか結果を心待ちにしていました。すると、地域の方たちは自分たちの力で自分たちの地域を定期的にきれいにされているようで、清掃をしてほしい場所はあまりないことが分かりました。また、たった一回きりの清掃活動で地域の人を笑顔にすることは難しいという現実を知ることとなりました。そこで子供たちは、清掃活動の他に笑顔を生み出すものはないか探り始めます。考え出されたのが「明新シャルソン」。地域に隠れた歴史やお店等の情報を知りながら地域を散歩するイベントで、過去に森田地区で行われた「森田シャルソン」では沢山の笑顔が生まれたそうです。現在は森田シャルソンを参考にイベント企画中です。話し合いは山あり谷ありますが、3月開催に向けてつき進みます。



【5年生】『外国人の笑顔のもとってなんだろう』

これまでに、幼稚園児、1年生、家族、地域の高齢者を笑顔にしてきた子供たち。6年生では、みんなを「笑顔」にしていきたい。そのために、5年生では、将来関わりが多くなるとされる外国人を中心に、笑顔のもとを探っていくことになりました。外国人との交流や、外国人と日々関わっている日本人との交流を通して、外国人の笑顔には、安心の笑顔や知ってもらおう喜びの笑顔、一緒に遊ん

で楽しい笑顔など、種類があることに気づきます。困っていることを解決するために、公共施設の表記を外国語や、やさしい日本語にしたいと考えるグループや、簡単な教科書を作成して教えたいと考えるグループ。お互いの文化を伝え合う交流を企画するグループ。外国人の情報を発信するグループ。楽しいイベントを企画するグループの5グループに分かれ、笑顔の種類別に探究が始まりました。市役所見学や、外国人の多い小学校との交流を行い、外国人の笑顔のために自分たちができることを具体的に探っていきます。



【6年生】『 創ろう 笑顔の絆 伝えよう OOのよさ 』

昨年度「リーダー」について探究したことを生かし、いよいよ前期課程のリーダーとして力を発揮する時を迎えた6年生。日々試行錯誤しながら、それぞれが理想とするリーダーを目指してきました。そんな中、昨年度出前授業をしてくださった平井さんのフードロス事業に興味をもちました。平井さんと一緒に活動し食品ロスを減らしたい、その取り組みについてたくさんの人に知ってもらいたい、という子供たちの願いから、規格外野菜の販売や広報活動、フードドライブへの取り組みが「社創デー」として実現しました。フードロスに関する活動の中にも、今までのリーダーとしての学びが生かされることを発見し、活動に達成感を感じることができた子供たち。先日、修学旅行にて、SDGsについて学習している京都教育大学附属京都小中学校の6年生と、互いの学びや学校文化、その思いについて交流することができました。前期課程もまとめの時期に差し掛かり、今後どのように後期課程へと学びをつなげていくのか59名みんなで考えていきます。



【7年生】『 観つなプロジェクト～観光で繋がろう～ 』

6月、学年での話し合いを経て、「それぞれの個性が咲き乱れる学年にしたい」という思いから「百六花繚乱」という学年目標が生まれました。その目標の通り、各自の思いや考えを活かしながら社創が進んでいます。

9月には、今後探究していきたいことについて意見を交わし、活動のテーマ決めに入りました。なかなか見通しがもてず話し合いが停滞したり、それぞれの思いがぶつかって議論が平行線をたどったりすることもありました。しかし、先輩達とのラウンドテーブルで助言をもらったり、社創実行委員が話し合いの内容を整理して新たな意見を提案したりするなど、活動に変化をもたせながら議論を前に進めていき、最終的に「観光」をテーマとすることになりました。これからは「食」「職業」「町おこし」「アート」「自然」など、さまざまな分野から観光の本質に迫っていくために、グループを組んで調査活動に入ります。先日校外での実地調査も行い、学年でそれらの学びを共有して、今後は「観光」を多角的に探究していく予定です。



【8年生】『 波紋 』

「波紋」というテーマのもと、生徒たちは自分が興味をもった20グループに分かれ、探究活動を行っています。波紋とは、「自分たちが伝えることで、周囲の人が自分事として捉え、行動に移してくれること」、「人の心が動き、「仲間になりたい」と思ってくれたり、「応援したい」と思ってくれたりすること」と捉え、福井駅前のハピテラスでイベントを行ったり、文化祭で展示・体験ブースを

設け、小中学生との交流を行ったりしてきました。

当初は自分たちのやりたいことに没頭していた20のグループは、イベントやラウンドテーブルを経験することで、「他のグループに力を貸して欲しい」、「他のグループと協力するともっと面白いことができる」、「自分たちは、他のグループの役に立つのではないかと」、「他者とつながることの価値」や、「自分たちの活動の価値」を感じるようになってきました。

修学旅行前には、これまでお世話になった方々に自分たちの姿を見てもらうための“県内フェス”を、また、修学旅行中には自分たちの知見を深めた後、県外で“波紋フェス”を計画しています。



【9年生】『畑で働けプロジェクト』→『農業×若者』、『学級演劇』、活動の省察

学級演劇が終わり、これまでの社会創生プロジェクトでの活動を省察しています。学級演劇を成功させることができたのは、「私たちがこれまでどんな力をつけてきたからなのか」という問いを基に振り返ってみると、学年目標の「合意形成」にはじまり、コミュニティ内の情報格差をどう埋めていくか、計画を立て、見通しをもって活動するためにどうあるべきか、モチベーションを維持していくためにどのような工夫ができるかなど、何度も異なるプロジェクトの中で繰り返してきたことで力を培ってきたことが見えてきました。

これまで、コロナ禍でも伝統や文化を途切れさせてはいけないという想いで活動をしてきましたが、先輩たちが培ってきたものを9年生が受け取り、自分たちのオリジナリティを加えて活動ができました。これからは、さらに後輩たちにその思いを伝えていきたいと考え、現在は本づくり、ラウンドテーブル、動画づくり、ホームページ作成、イベントの5つのプロジェクトに分かれて、文化の継承を目指しています。



先月、教員が定期的に行っている放課後の研究会に後期課程の生徒が参加し、小グループに分かれて社創について語り合うという時間をもちました。語り合いを終えて、ある9年生は次のように述べてくれました。「低学年、2年生の授業においても、きちんと高まっていくプロジェクトもプロセスもあるということに驚いた。先生の立場から2年生の活動を見ると、そこにサイクルが生まれているという。サイクルのある探究を小さい頃からは行っているのは、附属の良さではないか。今回、先生方にストーリーとして語ってもらうことで、これまでのそれぞれの学年の軌跡というものを身に染みて感じることができた。」



子供たちは、それぞれの学年に応じた探究活動に取り組み、その活動を次につなげるために省察し、学年が上がるにつれて、その省察自体も時をおいて省察します。「7年生の時の社創は、ゴールはどこを目指しているんだろうと不安を感じたこともあった。でも9年生になると、みんなを信頼できるようになっている。どこで変わったのだろう。」そんなことを語ってくれた子もいました。私たち教員も、子供たちに負けないよう、子供たちとともに『100%のプロジェクトの学びの創り手』をめざし、研究を継続していきたいという気持ちを強く持ったところです。

保護者の皆様には、これからも「社会創生プロジェクト」での子供たちの学びを温かく見守っていただきますよう、よろしくお願いたします。